

令和五年第三回薩摩川内市議会定例会 施政等の概要

令和五年第三回市議会定例会の開会に当たり、現時点における諸報告と所信の一端を申し上げますとともに、このたび提案いたしました補正予算案等の概要を御説明し、議員各位並びに市民の皆様への御理解と御協力を賜りたいと存じます。

今月九日に本市に最接近した台風六号への対応につきましては、七日の九時に災害対策本部調整会議を開催するとともに、八日の十六時四十五分に市の災害対策本部を設置し、同日十七時に市内全域に避難指示を発令いたしました。甌島列島の西方沖を北上する進路をとる予報であったことから、大雨による土砂災害や暴風等に対して、厳重な警戒を続けましたが、本市においては人的な被害はなく、家屋及びライフライン等の大規模な被害は生じなかったところであります。本格的な台風シーズンを迎え、災害発生の可能性が高まっていることから、今後も、市民の皆様迅速かつ的確な避難情報等を発信するとともに、災害への備えについて、万全を期して参ります。

先月二十四日、地域防災の要となる消防団組織の維持を図るため、消防関係機関の皆様と令和プロテクト・トークを開催いたしました。消防団組織の在り方や処遇改善等による団員確保に向けた取組等について意見を交わしたところであります。

また、先月二十七日には、南九州福山通運株式会社との間で、「災害時における物資輸送等に関する協定」を締結いたしました。今後、災害発生時において、防災備蓄場所、物資拠点施設等から避難所等への物資配送や、物資拠点施設の運営等に支援をいただきます。引き続き、災害発生時に備え、関係機関との緊密な連携体制の構築を図り、市民の皆様の安全・安心な暮らしの実現に努めて参ります。

本市の経済好循環の創出において喫緊の課題である産業人材確保・移住定住対策につきましては、先月二十四日に薩摩川内市産業人材確保・移住定住戦略協議会を設置いたしました。本協議会は、本市のほか、国・県の行政機関や、地域の雇用に関わる企業が加入する経済団体、求職者となる生徒・学生等と関わる小・中・高等学校や大学など、二十七の機関・団体等が連携し、地元企業の認知度向上や地元就職の啓発を図るとともに、若年層の離職者等のＵターンの促進及び移住定住の推進を図るものであります。現在、本協議会の活動として、市内の各高等学校における地元就職に係る現状や取組等について意見交換を行っており、今後、地元企業の魅力を伝える更なる仕組みづくり等について、具体的な対応策の検討を進めて参ります。

先月十七日から十九日まで、鹿児島県市長会の市長海外視察により台湾を訪問し、公益財団法人日本台湾交流協会や台湾政府

観光局等を訪れました。現在、九州と台湾は、半導体関連の企業進出等を通じて経済協力が加速しており、更なる交流の拡大が期待されております。本市におきましても、昨年十月に、アジア太平洋学術産業連携協会の理事長で、国立台湾大学経営学部の名誉教授でもある柯承恩（チェンエン・コー）氏をはじめとする台湾経済界の皆様が、川内（火力）発電所跡地や川内港久見崎みらいゾーンを視察され、私も本市の資源循環に係る施策展開について説明いたしました。また、先月の台湾訪問の際にも、柯承恩氏に面会し、今後の新たな経済連携の創出について、協議を行ったところであります。

このようなつながりを基に、本年十一月十五日から十七日までの三日間、本市において「二〇二三年度 九州・台湾クリエイティブウイーク」と題したフォーラムを開催することとなりました。日本、台湾及びアメリカの産官学金の関係者の方々が、九州と台湾の経済交流の促進、経済人材のネットワークの構築等のため、本市で一堂に会する貴重な機会であり、本市のサーキュラー都市の実現に向けた取組を発信し、新たな人流・物流を創出する絶好のチャンスであります。十一月の開催に向け、企画・運営に御尽力いただく、スタンフォード大学創薬医療機器開発研究所の西村俊彦所長をはじめとした関係者の皆様との調整を図り、今回の台湾との交流が、本市、鹿児島県及び九州の経済発展につながる

よう準備を進めて参ります。

これらの新たな動きに加え、昨年二月に公表いたしました「アフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望」につきまして、本市の未来創生の実現に向けた施策を着実に進めております。

新ビジョンの策定に関しましては、第三次総合計画の原案について、先月十四日、自治総合審議会に諮問を行うとともに、先月二十五日を皮切りに、市内六箇所におきまして、第三次総合計画広聴会（通称・Vトーク）を開催いたしました。広聴会においては、令和七年度を始期とする、まちづくりの将来像を描いた新たな羅針盤となる第三次総合計画の原案に対して、多くの市民の皆様から貴重な御意見をいただいたところであります。また、今日から三十一日までパブリックコメントも実施しており、自治総合審議会における委員の皆様からの御意見も含め、引き続き同計画の策定に向けた広聴活動を大切にしながら、市民の皆様とともに、未来のまちの姿を描いて参ります。

循環経済・産業拠点の創出及び雇用の創出に関しましては、「サーキュラーパーク九州」の実現に向けた連携協定の締結から一年を迎えた先月二十六日、川内（火力）発電所跡地に、九州電力株式会社と株式会社ナカダイホールディングスが共同で、サーキュラーパーク九州株式会社を設立されました。また、先月三十一日には、大塚大輔鹿児島副知事立会いの下、本市と同社との立地

協定調印式を執り行いました。企業や地域の廃棄物の再資源化を図るリソーシング事業の来年四月からの開始に向けて、今後、施設の整備等が進められるとともに、産官学のネットワークを活用した共同研究や実証実験等を行うソリューション事業が展開される予定であり、資源循環の社会実装や雇用の創出に期待しております。

重要港湾川内港につきましては、今日一日、六年ぶりに東京都内でポートセミナーを開催いたしました。現在、川内港におきましては、国直轄事業により、唐浜地区国際物流ターミナル整備事業が進められる中、令和四年の原木輸出量は、速報値で全国第三位となり、また、同年の外貿コンテナ取扱量も、過去最高の約二万四千TEUと、五年連続で二万TEUを達成するなど、順調に伸びております。このような川内港の現状について、船社・商社・物流業の関係企業等の方々に情報発信を行うとともに、川内港の港湾サービスや背後地における産業振興の取組について、トップセールスを実施いたしました。

さらに、今日十日には、鹿児島県において、港湾法の改正により名称変更となった、第一回川内港港湾脱炭素化推進協議会も開催され、港湾の脱炭素化の実現に向け、「川内港港湾脱炭素化推進計画」の策定に関する協議がなされたところであります。

これらの拠点整備と併せて、川内港臨海ゾーンにつながる交通

ネットワークの形成も進められており、先月二十二日には、南九州西回り自動車道阿久根川内道路決起大会を阿久根市で開催し、早期整備の実現に向けて、気運醸成を図ったところであります。また、今月二十六日には、川内宮之城道路の構想実現に向けた初の決起大会の開催も予定しており、地域の皆様とともに、市民生活の向上や産業活動の発展に資する社会基盤の整備を推進して参ります。

交流の創出にしましては、第四十七回全国高等学校総合文化祭の書道部門が先月三十日から今月三日にかけて、また、吟詠剣詩舞部門が先月三十一日に、本市で開催されました。全国の高校生の皆さんの情熱が込められた作品や、真剣な眼差しによる発表に触れ、大変感銘を受けました。加えて、今回の開催に当たっては、準備及び運営についても高校生が主体となって行っており、頼もしく感じたところであります。今回のイベントを機に、高校生の芸術文化活動における交流の輪が全国に広がることを期待しております。

五十一年ぶりの鹿児島県での開催となる「燃ゆる感動かごしま国体」まで、いよいよ残り四十六日となりました。先月十六日には、入来郷土会の皆様により、国体ウエイトリフティング競技選手激励会が開催され、国体出場が決定した選手と地域の皆様が団結を深めるなど、本市開催競技を市民ぐるみで応援し、盛り上げ

る体制が整いつつあります。国体開催まで残りわずかとなりましたが、最終的な準備や確認を進め、大会の円滑な運営を図るとともに、市民の皆様と一体となって、全国から集まる選手や関係者の方々に心のこもったおもてなしを行い、本市の多彩な魅力を発信して参ります。

本年五月に、新型コロナウイルス感染症の法令上の位置付けが変更されて以降、本市においても社会経済活動の再開が大きく進んでおります。地域社会の維持、持続的な市勢の発展に向け、引き続き「アフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望」に掲げた施策の推進に全力を傾注する所存であります。

先月十日には、市長Dトークとして、薩摩川内市保育連合会の方々との対話を行いました。市内の保育施設の代表者の皆様から、保育施設の現状や保育士不足の状況等について、直接、貴重なお話を伺い、これからの子育て支援の在り方について、意見を交わしたところでもあります。今回、得られた現場の皆様からの御意見も参考に、今後の子ども・子育て施策を検討して参ります。

先月二十三日には、さつま町で開催されたJA北さつま畜産振興大会に出席いたしました。四年ぶりの開催となったこの大会において、地域の畜産関係者の皆様は、畜産基盤の維持・整備に向け、講演等に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。畜産農家をはじめとする農林水産業者の皆様は、昨今の飼料・肥料の価格

高騰等により厳しい経営を強いられており、今後とも関係機関との連携を図りながら、対策を講じて参ります。

先月二十七日には、一回目となる「休日における部活動の地域移行」推進会議を開催いたしました。現在、本市では三校において部活動の地域移行を実施しており、先月末現在において、二十一名の方々が地域指導者人材バンクに登録されておられます。引き続き、更なる登録の促進に努め、生徒にとって望ましい部活動環境の構築及び教職員の働き方改革の実践に取り組んで参ります。

今月七日から二十日までの十四日間、バレーボール女子日本代表チームの合宿が行われました。期間中には、公開練習や紅白試合も行われ、多くの皆様が、世界のチームを相手に活躍する選手の迫力あるプレーに、拍手や声援を送られたところでもあります。来月に開催される、FIVBパリ五輪予選／ワールドカップバレー二〇二三における御活躍を心から願っております。

今月十六日には、川内商工会議所主催による川内川花火大会が開催されました。会場には、塩田康一鹿児島県知事をはじめ、市内外から多くの観客の皆様が訪れ、色鮮やかな約一万発の打上花火や、川内川を横断する巨大ナイアガラを観覧されるなど、大いにぎわったところであります。また、川内大綱引保存会の主催による川内大綱引につきましても、四年ぶりの大綱引の実施に

向け、準備が進められております。引き続き、関係団体の皆様と連携し、このような伝統行事やイベントの開催を通じて、地域の活性化を図り、本市の交流人口の創出につなげて参ります。

今月十八日には、甑島における自然環境や、独自の歴史・文化、生業・生活を自然観光資源として捉え、これらの保全や利用に関する具体的な指針を定めた「甑島エコツーリズム推進全体構想」について、国からエコツーリズム推進法に基づく認定を受けました。この構想を基に、今後も、地域の皆様とともに、自然環境資源の保全や生業・生活環境の保護を進め、更にツアーの質の向上に努めることにより、甑島への誘客促進を図って参ります。

また、同日、本市の住民福祉の向上と総合的な地域振興を図るために、大田黒議長とともに、塩田康一鹿児島県知事に、国・県事業の実施に関する要望活動を行いました。原子力発電所や重要港湾川内港・サーキュラー都市づくり、産業人材確保・移住定住促進など、全二十三項目について要望し、国・県事業の推進について、協力を求めたところであります。今後も、本市が抱える課題の早期解決に向け、国・県との連携強化を図り、着実に事業を推進して参ります。

なお、新型コロナウイルス感染症に関しましては、鹿児島県内では感染者数が最近まで増加を続けておりました。市民の皆様におかれましては、引き続き、場面に応じた基本的な感染防止対策

に取り組んでくださいますようお願いいたします。また、来月二十日から予定されている新型コロナウイルスワクチンの秋開始接種については、円滑に進むよう、関係機関と連携を密にして参りますので、対象者で希望される方は、重症化予防、感染予防及び発症予防の観点から、早めの接種を検討してくださいませようお願いいたします。

次に、今回の補正予算案について御説明いたします。

今回の補正予算案は、一般会計において十三億七百八十九万八千円の増額補正を、四特別会計において一億一千二百六十九万三千円の増額補正等を、また、下水道事業会計に係る補正を提案したものであります。

一般会計につきましては、歳入において、補助内示等に伴う国・県支出金及び市債を調整したほか、繰越金の増額などを行ったところであります。

歳出においては、中央消防署下甌分駐所に配備する救急自動車の更新整備や民間路線バスの確保・維持に係る経費を計上したほか、鳥獣被害対策や祁答院地域小学校再編に係る経費を増額しております。また、職員異動等に伴う給与費関係の調整を行うとともに、前年度繰越金の確定に伴う財政調整基金への法定積立の増額を行い、さらには、川内市医師会立川内看護専門学校の学生確保を支援するための債務負担行為を設定しております。

特別会計につきましても、一般会計と同様に職員給与費関係の調整を行っているほか、国民健康保険直営診療施設勘定特別会計では、甑島の診療所における医療機器の整備に係る経費を計上しております。

なお、今定例会におきましては、補正予算案のほか、薩摩川内市使用済核燃料税条例の制定についてをはじめとする各議案について御審議をお願いしておりますが、会期中に令和四年度各会計決算に係る認定議案等を追加提案させていただく予定でありますので、御了承を賜りたいと存じます。

提案いたしました各議案の細部につきましては、主管部・課長から説明させますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。